

下痢の流行及び自由州におけるクリミア・コンゴ出血熱の患者発生

1. ウイルス感染性胃腸炎 (stomach flu) とと思われる下痢の流行

ケープタウンにおいては、昨年11月及び12月の2ヵ月間で2,500人以上の子供が下痢に伴う脱水で治療を受け、300名が入院、少なくとも2名が死亡した模様です。

また、ハウテン州の学校でも同様の嘔吐・下痢を主症状とする感染症が流行し始めたとのことです。例年、夏季の下痢は2月、3月がピークとのことです。食事の前には手を良く洗うよう注意してください。

2. 自由州におけるクリミア・コンゴ出血熱の患者発生

自由州の動物保護区でクリミア・コンゴ出血熱の患者が2名発生した模様です。

クリミア・コンゴ出血熱はダニを介するウイルス感染症で、インフルエンザ様の突然の発熱・頭痛・筋肉痛・腰痛などがその症状です。重症化した場合、血小板減少による出血傾向が見られ、肝・腎不全や消化管出血で死に至ることがあります。(致死率は15～40%)

空気感染はありませんが、血液や体液を通してのヒト・ヒト感染はあります。

クリミア・コンゴ出血熱以外にも人獣共通の感染症として、南アフリカでは「リフトバレー熱」、「ダニ熱」が有名です。動物保護区や野山のトレッキングではダニ等に注意してください。

ご不明の点は大使館医務官へお問い合わせください。

平成25年1月17日

在南アフリカ共和国日本大使館領事班

電話:012-452-1500

FAX:012-460-3800

consul@embjapan.org.za

<http://www.za.emb-japan.go.jp>